

# 第17期(2022年3月期)第2四半期決算説明会

2021年11月29日



アジアパイルホールディングス株式会社

# 目次

I 決算のポイント、主なトピックス	1
II マーケットの動向	9
III 決算概要(連結)	14
IV 経営概況	20

# I 決算のポイント、主なトピックス

# I-1 決算のポイント

## ➤ 2022年3月期 第2四半期連結業績の概況

(%表示は対前年同期増減率)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
457億円 (+0.6%)	19.7億円 (Δ0.7%)	20.0億円 (+11.5%)	14.0億円 (Δ25.8%)

売上・利益共  
前年並み

※除く特別損益

## ➤ 2022年3月期 連結業績予想及び進捗状況

(%表示は対前期増減率)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
900億円 (+3.2%)	35億円 (+4.8%)	32億円 (+3.8%)	20億円 (Δ17.9%)
進捗率50.8%	進捗率56.3%	進捗率62.6%	進捗率70.4%

売上は計画通り  
利益は上振れ  
業績予想は据置

## I-2 決算のポイント

### ➤ 国内、海外の状況

(連結調整前、%表示は対前年同期増減率)

国内外共 コロナ感染 影響大		売上高	セグメント利益
	国内	383億円 (※△0.1%)	15.6億円 (+6.4%)
	海外	74億円 (+2.8%)	4.2億円 (△33.2%)

一部工事遅延影響あるが  
売上高維持、利益確保

再エネ分野注力も  
原材料高騰が収益圧迫

※会計基準変更による減少(12億円)を控除した場合は、+3.4%

### ➤ 国内部門別売上高

(%表示は対前年同期増減率)

コンクリートパイル	場所打ち	鋼管	その他(継手金具等)
283億円 (※①△4.8%)	70億円 (+7.9%)	16億円 (+25.9%)	12億円 (※②+105.4%)

※①会計基準変更による減少(12億円)を控除した場合は、△0.6%

※②シントク工業(株)子会社化(2020/6末)による四半期分の外部売上寄与

## I-3 主なトピックス

### 国内展開

工事着工遅延発生も大型工事中心に受注堅調推移

MAGNUM工法好調／新工法:Smart-MAGNUM工法本格展開

ICT工事管理展開中

### 海外展開

ベトナム  
PV社

再生エネルギー分野への拡大推進中  
鋼材価格上昇による採算悪化

ミャンマー  
VJP社

クーデター影響による操業停止  
前期減損実施済による赤字圧縮

## I-4 主なトピックス

### 国内展開

#### 工事着工遅延発生も大型工事中心に受注堅調推移

- 大型工事案件は7割を超える水準に
- 受注高堅調に推移
  - ・2021/7-9期受注高は168億円(前年同期比+22.8%増)
  - ・内、大型工事は118億円(前年同期比+33.0%増)
- コンクリートパイルシェアアップ
  - ・2021/4-9期完工シェア:30.2%(2021/3期:26.5%)
  - ・同、出荷シェア:27.5%(同:25.1%)
- 場所打ち堅調
  - ・社内体制整備、大型工事対応力強化取組中

## I-5 主なトピックス

### 国内展開

#### MAGNUM工法好調／新工法:Smart-MAGNUM工法本格展開

- 主力工法・MAGNUM工法が好調に推移
- 新工法・Smart-MAGNUM工法:本格展開開始
  - ⇒ 両工法で国内完工高の4割以上を占める

#### ICT工事管理展開中

- ICT活用推進による施工品質・施工精度向上
  - ✓ 施工データのデジタル化推進
  - ✓ 杭工事記録システム「現場検査マイスター」展開中

## I-6 主なトピックス

### 海外展開

ベトナム  
PV社

再生エネルギー分野への拡大推進中  
鋼材価格上昇による採算悪化

- 再生エネルギー分野での受注拡大推進中  
利益率の高い案件の受注強化
- 鋼材価格急騰による採算悪化
- 国内事業との連携強化・施工技術向上への取組着手

ミャンマー  
VJP社

クーデター影響による操業停止  
前期減損実施済による赤字圧縮

- クーデター後、業務環境悪化・工場は実質操業停止中
  - ✓ 前期減損実施済 ⇒ 償却負担軽減・赤字幅圧縮
  - ✓ 引き続き事態の推移注視しつつ適切に対応していく方針

■ 2021.08.02 SDGsへの取り組みページを開設しました



アジアパイルホールディングスグループは、「世界に通じる基礎を造る」「進歩の原点は現場にあり」「仕事を天職として社会に尽くす」を企業理念として、それに基づきビジネスを通じて社会的課題解決に取り組むことで、持続的成長と中長期的な企業価値の向上の実現を目指してまいります。

HOME > SDGsへの取り組み

アジアパイルホールディングスグループのサステナビリティ

SDGsへの取り組み

アジアパイルホールディングスグループは、SDGsに関する理解を深め、グループの事業活動にSDGsの視点を生かす取り組みを進めてまいります。今後、具体的な取り組みについて、トピックスとして発信していく予定にしております。

SDGsへの取り組み概要

目標とするSDGs

質の高い教育をみんなに  
エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
働きがいも経済成長も  
産業と技術革新の基礎をつくらう  
住み続けられるまちづくりを  
パートナーシップで目標を達成しよう

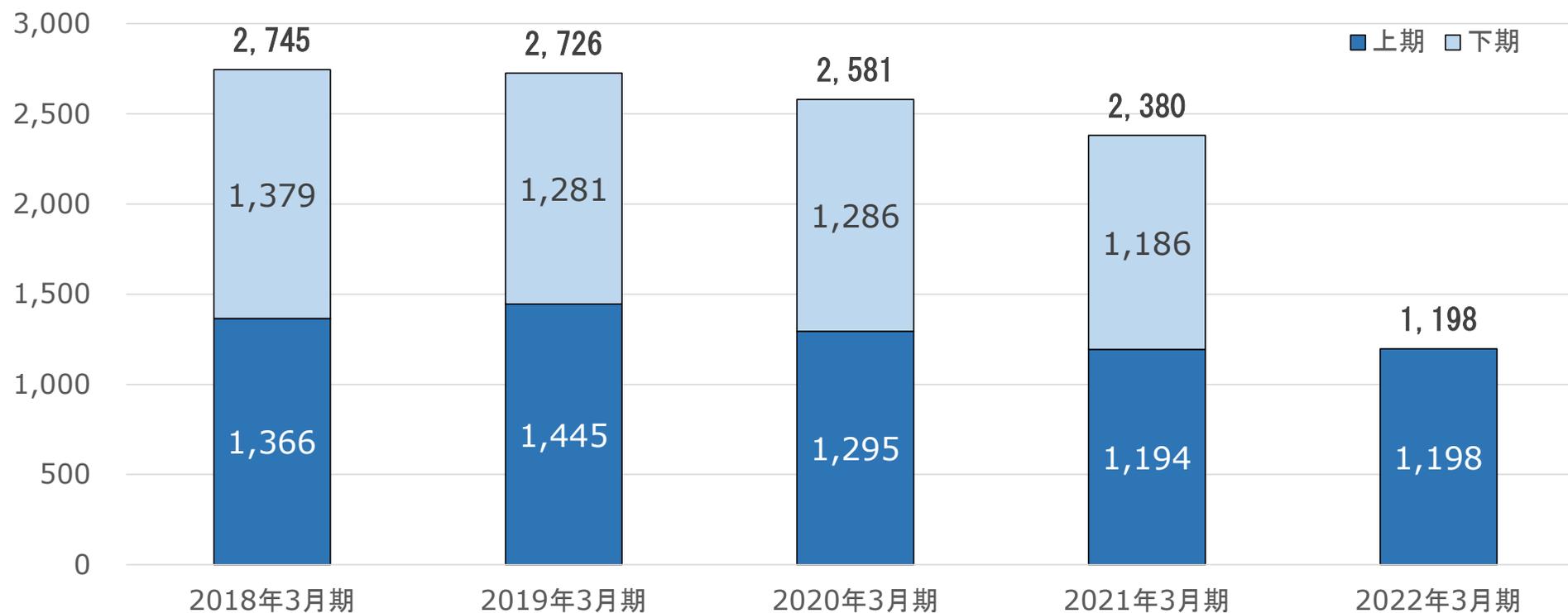
当社優先課題	E (環境)	S (社会)	G (ガバナンス)
事業の拡大	<p>効率的施工による省資源化</p> <p>生産・施工における継続的技術革新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Smart-MAGNUM工法の開発</li> <li>その他新工法・新製品開発</li> <li>二次設計対応</li> </ul>		<p>グローバルガバナンス体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルベースの内部統制の確立</li> </ul>
収益構造の転換	<p>再エネ分野での基礎工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洋上風力発電プロジェクト</li> <li>太陽光発電プロジェクト</li> <li>地熱トルネード工法</li> </ul>	<p>アセアン地域の事業の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム</li> <li>新規参入国の継続検討</li> </ul>	

## Ⅱ マーケットの動向

## Ⅱ-1 全国コンクリートパイロ出荷量

(単位：千トン)

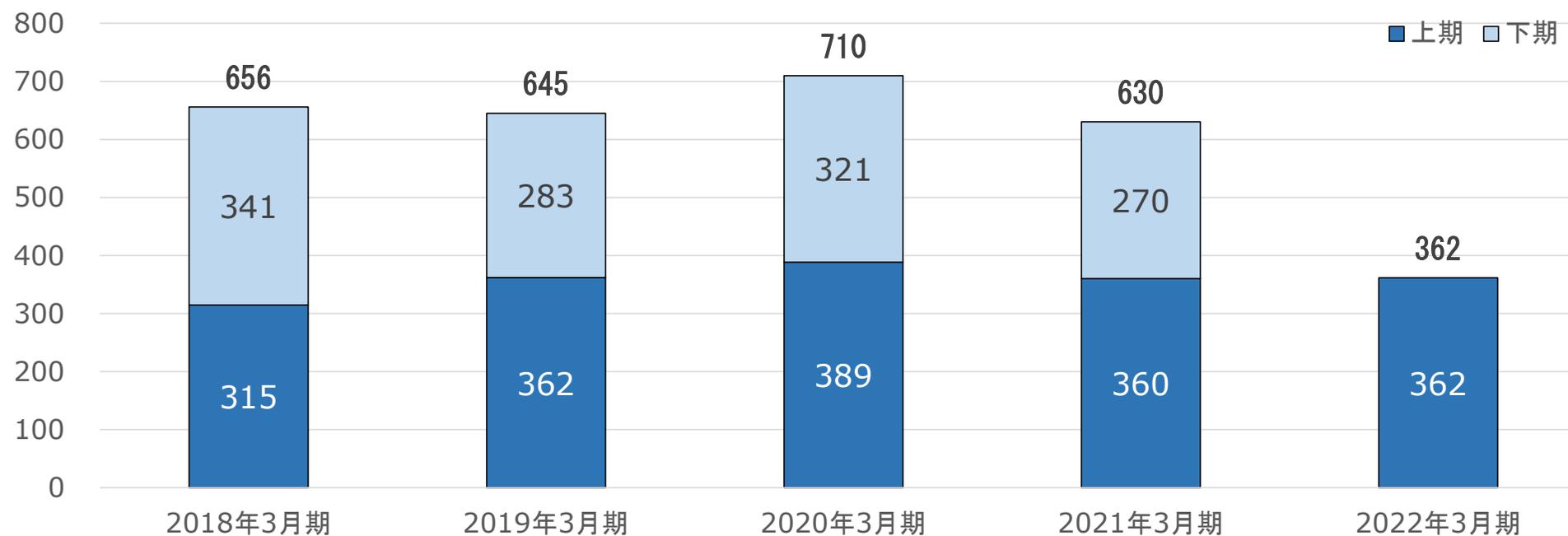
(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料



➤2021年度上期は、ほぼ横這い

## Ⅱ-2 当社グループのコンクリートパイプ完成量(国内)

(単位：千トン)



➤ 2021年度上期は、ほぼ横這い

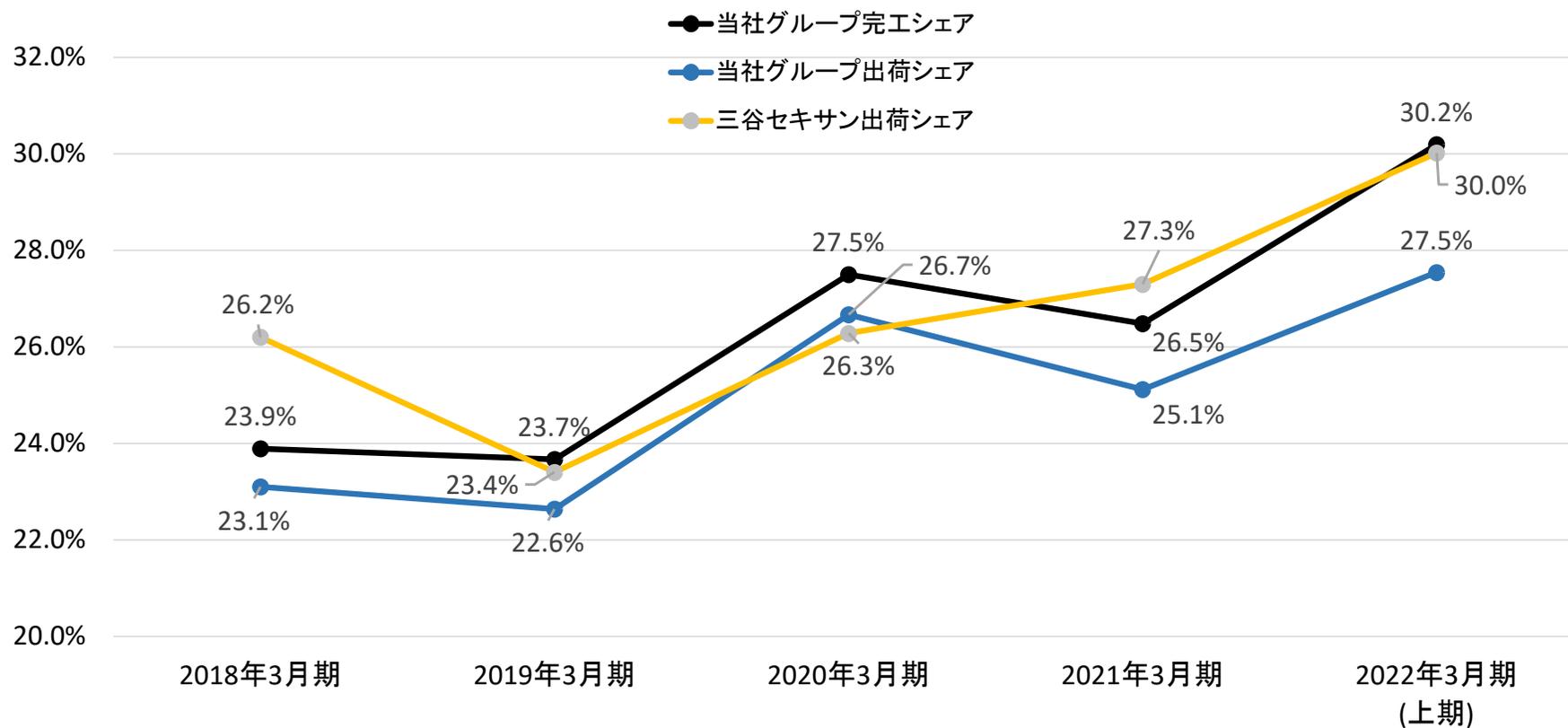
## Ⅱ-3 コンクリートパイルのシェア(国内)

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料

		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (上期)
当社グループ	完工量(千t)	656	645	710	630	362
	シェア	23.9%	23.7%	27.5%	26.5%	30.2%
	出荷量(千t)	634	617	688	598	330
	シェア	23.1%	22.6%	26.7%	25.1%	27.5%
三谷セキサン	出荷量(千t)	719	638	678	650	360
	シェア	26.2%	23.4%	26.3%	27.3%	30.0%
日本コンクリート工業	出荷量(千t)	257	333	241	233	79
	シェア	9.3%	12.2%	9.3%	9.8%	6.6%
日本ヒューム	出荷量(千t)	289	252	247	193	110
	シェア	10.5%	9.3%	9.6%	8.1%	9.2%
トーヨーアサノ	出荷量(千t)	179	175	140	195	96
	シェア	6.5%	6.4%	5.4%	8.2%	8.0%
その他	出荷量(千t)	668	711	586	512	224
	シェア	24.3%	26.1%	22.7%	21.5%	18.7%
業界全体	出荷量(千t)	2,745	2,725	2,581	2,380	1,198
	シェア	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

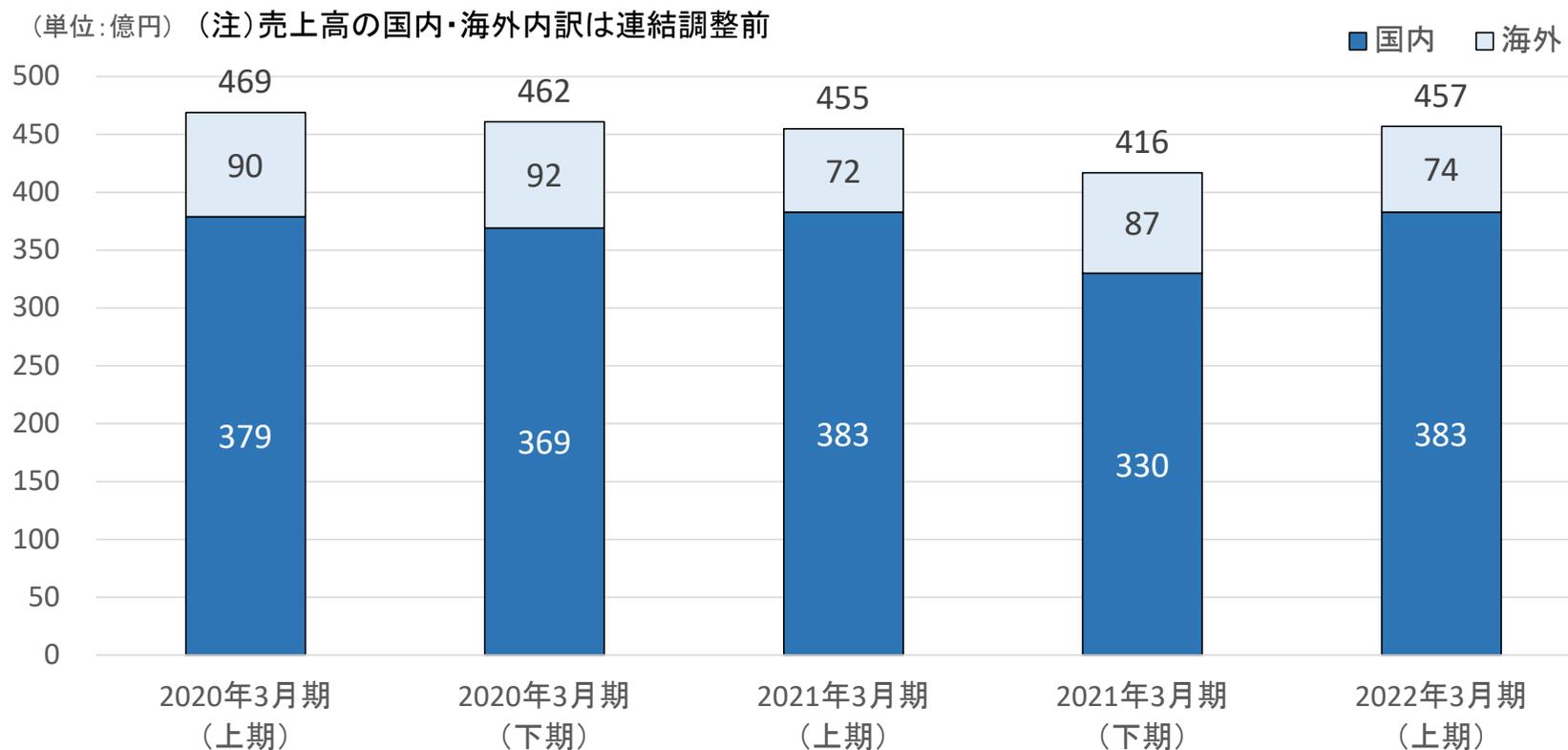
## Ⅱ-4 コンクリートパイルのシェア推移(国内)

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料



### Ⅲ 決算概要(連結)

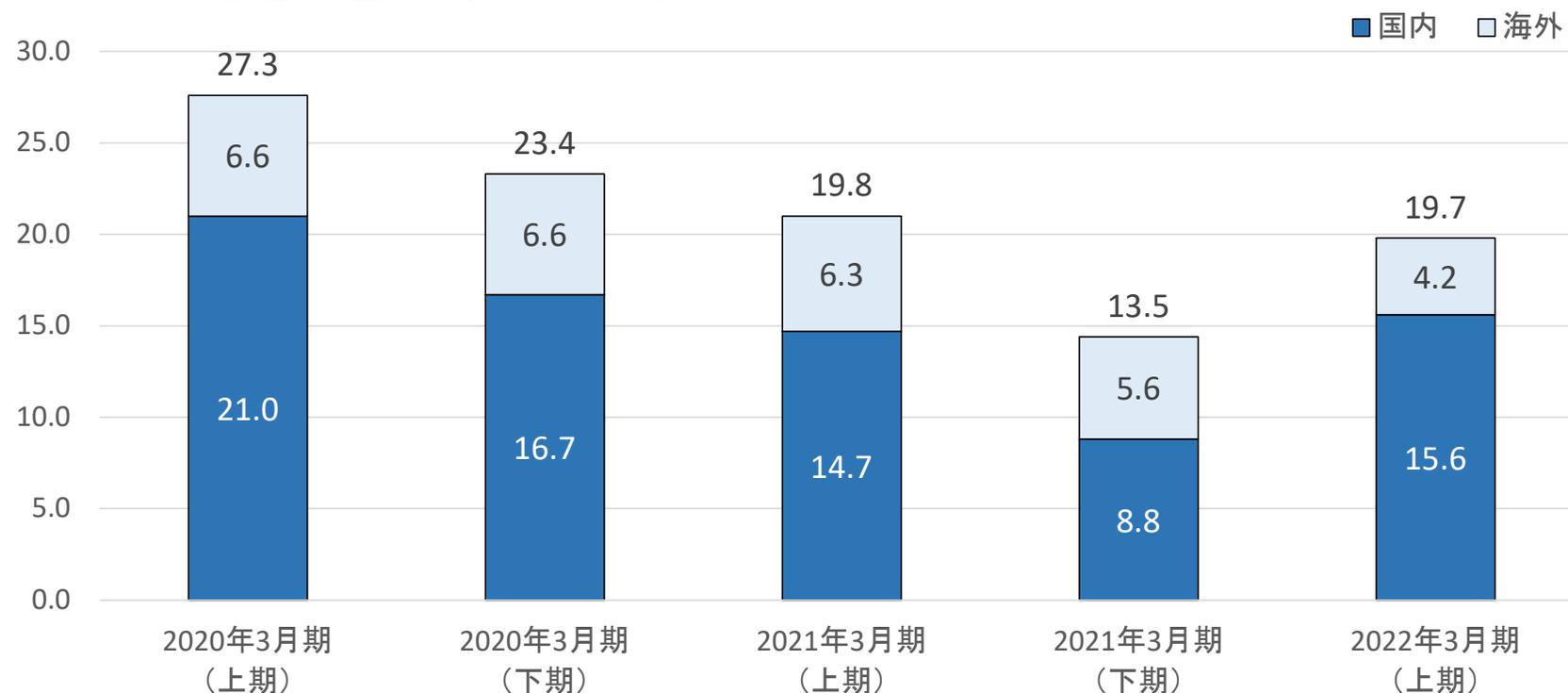
## Ⅲ-1 売上高の推移



➤国内・海外共に前年同期比横這い

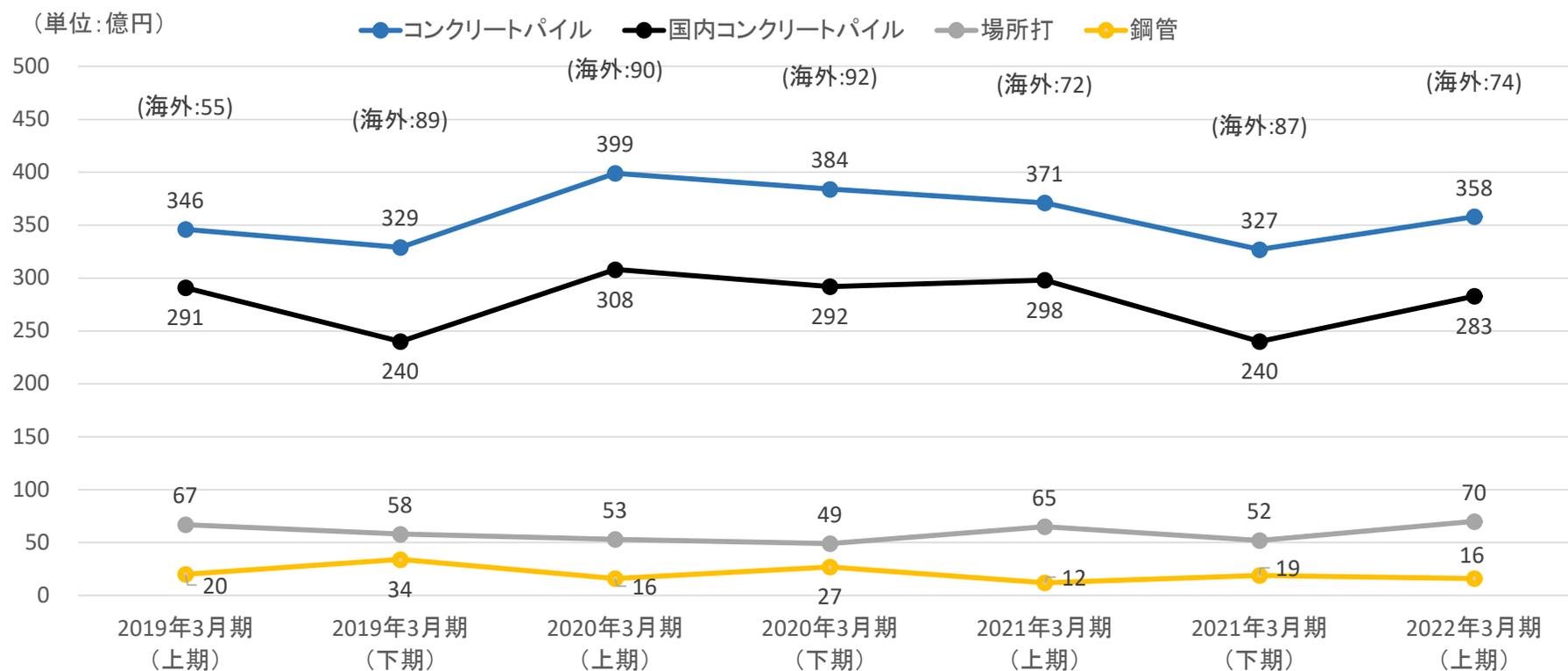
## Ⅲ-2 営業利益の推移

(単位:億円) (注)営業利益の国内・海外内訳は連結調整前



➤国内は大型案件が堅調で増益、海外は原材料高騰等により減益

### Ⅲ-3 部門別売上高の推移



## Ⅲ-4 損益計算書

	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		
	(単位:百万円)	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期※
売上高		37,365	77,994	43,491	85,566	46,962	93,175	45,528	87,192	45,786	90,000
売上総利益		5,264	11,336	7,089	13,593	7,209	13,860	6,421	12,328	6,422	-
営業利益		1,325	3,223	2,937	5,212	2,731	5,076	1,984	3,340	1,970	3,500
経常利益		1,203	2,997	2,794	4,847	2,427	4,596	1,797	3,081	2,005	3,200
親会社株主に帰属する当期純利益		761	1,911	1,986	3,164	1,522	2,712	1,899	2,437	1,409	2,000
売上高総利益率		14.1%	14.5%	16.3%	15.9%	15.4%	14.9%	14.1%	14.1%	14.0%	-
自己資本当期純利益率		-	7.0%	-	10.5%	-	8.1%	-	6.9%	-	-

※現時点でのコロナ影響を織り込んだ予想(期初予想通り)

## Ⅲ-5 キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期
	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)
I. 営業活動によるキャッシュフロー	288	1,750	△ 211	3,195	3,652	6,891	3,773	7,304	△ 410
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 2,017	△ 3,001	△ 1,769	△ 3,164	△ 1,267	△ 2,549	△ 2,531	△ 4,549	△ 1,085
III. 財務活動によるキャッシュフロー	1,668	2,014	77	1,937	△ 2,074	△ 3,636	1,709	△ 155	△ 1,075
IV. 現金及び現金同等物の期末残高	8,611	9,424	7,478	11,330	11,629	11,957	14,902	14,344	11,858

## IV 経営概況

## IV-1 経営概況

### 1. 上期の特徴

- (1) コロナ感染拡大と建設資材の値上がりの影響
- (2) 新工法の効果
- (3) 場所打ち杭事業の安定化
- (4) 海外情勢
  - ①ベトナム事業
  - ②ミャンマー事業

## IV-2 経営概況

---

2. コンクリートパイル業界の情勢

3. 当社の当面の方針

(1) 新工法の積極的活用

(2) 場所打ち杭市場の更なる開拓

## IV-3 経営概況

---

### 3. 当社の当面の方針(つづき)

(3) 5か年計画最終年度(2023年度)について

(4) ベトナム子会社でのビジネスの高度化の実現

### 4. おわりに



アジアパイルホールディングス株式会社

Building the foundations of Asia

アジアの基礎をきずく。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があることにご留意下さい。

また、本資料の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、その情報の正確性については一切保証いたしません。